



## ▶ 理事長あいさつ

一般社団法人日本肩関節学会理事長 池上博泰



日本肩関節学会会員の皆様、紙面をお借りしてご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のワクチンを既に2回接種されている方が多いのではと推察します。ただ医療職以外では、ワクチン接種率はまだまだ低いのが現状です。そのため、診療中も感染防止に神経を使われ、また厳しい医療機関の運営状況にお困りの会員も多くいらっしゃると思います。心から御慰労を申し上げます。

さて、2020年10月に二期目の理事長を拝命しました。ご支援頂きました会員、代議員の皆様には厚く御礼申し上げます。1月に発行されたニュースレター15号からこの6月の活動を4点に絞ってご説明申し上げます。

### 1. 学術集会の開催

学会のもっとも大きな事業は学術集会の開催です。第48回学術集会は岩堀裕介会長のもと2021年10月29-30日に名古屋市で開催予定です。また第18回日本肩の運動機能研究会が飯田博己会長のもと同時に開催予定です。詳細については、このニュースレターで岩堀裕介会長から案内があると思いますが、多くの学術集会が延期やWEB開催となる中で、現時点(2021年6月20日)では予定通り名古屋市で開催できるよう学術集会会長と学会理事会とで緊密に相談しながら鋭意努力をしています。

### 2. 日本肩の運動機能研究会

ニュースレター13号でもご報告したとおり、名称を「肩の運動機能研究会」から「日本肩の運動機能研究会」に変更して、日本肩関節学会の傘下として活動しています。このニュースレターで肩の運動機能研究会運営委員会から案内があると思いますが、詳細については日本肩関節学会のホームページ(学会HP)内にある<https://www.j-shoulder-s.jp/jssfr/>をご参照ください。

### 3. 本年度の代議員募集

学会HPにも公示されていますが、2021年度の代議員の募集人数は、6名となりました。本年度は理事会から推薦(理事会推薦枠)はありませんので、一般公募は6名となります。

### 4. 代議員6年目の評価

昨年是一般社団法人となって6年を経過して7年目をむかえたことから、初めてこの代議員6年目の評価が必要となりました。この審査を行うにあたっては、代議員資格評価委員会を新たに立ち上げて委員会内で審議していただき、評価の対象となった代議員29名に対して、学会活動および学術活動について厳正な審査をしていただきました。本年も昨年と同様に、代議員6年目となる9名に対して学会活動および学術活動について厳正な審査を行っていただく予定です。

本学会からのお知らせは逐次、学会HPで更新しておりますのでご覧頂けましたら幸いです。会員の皆様から学会に対する要望がありましたら事務局宛にお知らせください。

まだまだコロナとの戦いは続きますが、会員の皆様の益々の御健勝並びに御発展を祈念申し上げます。

## ▶ 第48回日本肩関節学会学術集会会長あいさつ

第48回日本肩関節学会学術集会 会長 岩堀裕介  
あさひ病院 スポーツ医学・関節センター長



第48回日本肩関節学会(以下学会)・第18回日本肩の運動機能研究会(以下研究会)は、5月中旬に一般演題の抄録提出を締め切り、現在、代議員の先生方に査読をご依頼する段階に入っております。COVID-19禍の混乱の中、多くの先生方に演題の登録をいただきありがとうございました。現在、学会会長のあさひ病院スポーツ医学・関節センター 岩堀裕介、研究会会長の愛知医科大学病院リハビリテーション部 飯田博己、事務局長のトヨタ記念病院整形外科の酒井忠博を含む7名の学術集会運営委員会が中心となって、日本コンベンションサービス株式会社に運営事務局を委託し、名古屋大学医学部整形外科、愛知医科大学医学部整形外科、医療法人三仁会のご協力を仰ぎながら、鋭意準備を進めております。

今回の学術集会の特別講演は、日本の講師は松戸整形外科病院の黒田重史先生に「多方向性不安定症」、海外の講師は Tulane University の Felix H Savoie 先生に「肩関節外科の過去・現在・未来」というテーマでお願いしております。文化講演には、日・米プロ野球を経験され、現在野球解説者としてご活躍中の川上憲伸氏をお招きしております。特別教育講演として、この1年間テレビでおなじみとなりました愛知医科大学感染症科教授の三嶋廣繁先生に、「COVID-19パンデミック&肩関節手術における周術期感染対策」のご講演をお願いしております。

学会のシンポジウムは、「投球障害肩」、「胸郭出口症候群」、「肩関節多方向不安定症」「肩腱板広範囲断裂に対するリバーズ型人工肩関節以外の対応」の4つのテーマを掲げ、国内外のスペシャリストの先生方にシンポジストとして登壇していただきます。COVID-19禍のため、海外招聘者は、北米と韓国の少数精鋭に絞り、北米からは、Felix H Savoie 先生、The Shoulder Center of Kentucky の W Ben Kibler 先生、TMI Sports Medicine and Orthopedic Surgery の Keith Meister 先生、Rothman Orthopaedics の Brandon Erickson 先生、University of Calgary の Ian K.Y. Lo 先生、韓国からは Seoul National University の Joo Han Oh 先生、NEON Orthopaedic Clinic の Jin Young Park 先生、Ewha Womans University の Sang Jin Shin 先生、Asan Medical Center の In-Ho Jeon の先生を招聘しております。COVID-19感染状況が許せば来日いただき、それが叶わない場合には極力オンラインライブ参加をお願いしております。

学会と研究会のコンバインドシンポジウムは、「投球障害肩」をテーマに掲げ、医師と理学療法士のシンポジストに加えて、野球解説者の川上憲伸氏、BCS Baseball Performance 代表の前田健氏、東邦大学・東邦高校硬式野球部総監督の森田泰弘氏、ジュニアベースボールリーグ愛知事務局長の山本次雄氏にもご参加いただき、医療サイドだけでなく、現場からのご意見や要望も織り交ぜながら議論を深めたいと思います。

研究会のシンポジウムのテーマは、「投球障害肩に対する年代ごとのアプローチ」「肩関節多方向性不安定症の保存療法」とし、前者では投球障害肩の少年期と青年期での対応の違いを、後者では最も医師・理学療法士を悩ませる緩い肩に対する保存療法を深掘りします。

その他、学会・研究会ともに、ご登録いただいた演題による魅力的な主題、一般演題のセッションを設けたいと





思います。

また、名古屋スポーツクリニックの杉本勝正先生・至学館大学の後藤英之先生による「肩関節の運動器エコー」、BCS Baseball Performance 代表の前田健氏による「投球動作指導」のワークショップも企画しています。具体的なスケジュールや参加者募集についてはホームページや会員様へのメール連絡でご案内いたしますので、奮ってご応募ください。

COVID-19 禍は予想以上に長期化して、5月中旬の日本整形外科学会、6月中旬開催予定の JOSKAS-JOSSM を含めて本年前半の整形外科関連学会の多くがオンライン開催を余儀なくされました。現在、本学術集会はハイブリッド開催方式を基軸に準備しておりますが、できるだけ多くの会員の方々に名古屋の会場に来ていただき、学術集会の本来の熱い議論ができることを切望しております。現地参加を左右するプラス材料としてワクチン接種の普及がある一方、マイナス材料として変異種の急速な蔓延があります。7～8月開催予定の東京オリンピック・パラリンピックの人流の影響も大きな不確定要素として存在し、現時点では全く予測ができません。最終的な開催方式は、学会直前の状況で決定させていただきますことを、あらかじめご了承ください。

10月末にできるだけ多くの会員の皆様に名古屋でお会いできることを祈りつつ、ニュースレターでの会長挨拶を終えたいと思います。

## ▶ 第 49・50 回日本肩関節学会学術集会のお知らせ

### 第 49 回日本肩関節学会

学術集会会長：高瀬 勝己（東京医科大学 整形外科分野 運動機能再建外科学）

開催日時：2022 年 10 月 7 日（金）～ 8 日（土）（予定）

開催場所：パシフィコ横浜ノース（神奈川県横浜市）

### 第 50 回日本肩関節学会

学術集会会長：池上 博泰（東邦大学医療センター大橋病院 整形外科）

開催日時：2023 年 10 月 13 日（金）～ 14 日（土）（予定）

開催場所：東京



## ▶ 各委員会報告

### 雑誌「肩関節」編集委員会

委員長 佐野博高

雑誌「肩関節」第45巻には、学術集会発表論文91編、原著・総説5編、症例報告12編、Proceeding29編、合計137編の論文をご投稿いただきました。1回目の査読では、編集委員や代議員に加えて、52名の正会員の先生方にも査読委員としてご協力いただきました。ご尽力下さった多くの先生方に、改めて深く御礼を申し上げる次第です。その後、2021年3月18日と4月6日にWEB会議を開催して論文審査を行い、現在2021年秋の公開に向けて、さらに編集作業を進めているところです。

さて、今回の審査では、著者の投稿資格や、原著論文としての適格性の確認が必要になった論文が散見されました。雑誌「肩関節」に主著者、共著者として投稿が可能なのは、日本肩関節学会の正会員・名誉会員・通信会員・準会員1号に限定されています。未入会の方、準会員2号の方は認められませんので、ご確認をお願いいたします。また、原著論文は学位論文を原則としますが、日本肩関節学会学術集会における発表演題に関する論文についても、カバーレターに原著論文として掲載希望であることが明記されており、内容的に学位論文に匹敵するものであると評価されれば、原著論文として掲載が認められます。残念ながら、今回は内容的に不十分という評価で、学術集会発表論文として再投稿するようお願いした論文が数編ありました。今後、原著論文としての投稿をお考えの方は、こうした点に十分ご留意いただいた上で、投稿論文をご準備いただければ幸いです。

最後に、雑誌「肩関節」委員会では、投稿者の利便性を向上させるために、投稿規定やチェック表を随時改訂しています。本誌に論文を投稿される際は、日本肩関節学会のweb site (<https://www.j-shoulder-s.jp/entryrule/index.html>) で、最新の情報をご確認下さるようお願いいたします。

担当理事：今井晋二

委員長：佐野博高

副委員長：内山善康、鈴木一秀

委員：新井隆三、石毛徳之、糸魚川善昭、伊藤陽一、北村歳男、黒川大介、後藤昌史、小西池泰三、西須孝、酒井忠博、塩崎浩之、設楽仁、杉本勝正、田中誠人、田中稔、谷口昇、仲川喜之、中溝寛之、夏恒治、二村昭元、三幡輝久、村成幸、山門浩太郎、山口浩、山崎哲也

アドバイザー：中川照彦

### 国際委員会

委員長 三幡輝久

2020年以来、日本肩関節学会の国際交流事業もCOVID-19パンデミックの影響で中止や延期が続いていましたが、このたび2022年の日本肩関節学会からASES(アメリカ肩肘学会)への留学生2名を募集いたしました(詳細は学会HPに掲載)。2020年10月のASESトラベリングフェローの選考・派遣はCOVID-19の感染拡大により中止となりましたので、4年ぶりの募集となります(応募締切:2022年3月31日)。貴重な経験になることは間違いありませんので奮ってご応募ください。

また、2020年度SECEC(ヨーロッパ肩肘学会)トラベリングフェローとして東北北海道病院の大野洋平先生が選考されておりましたが、COVID-19の感染拡大により中止となりました。そのため大野洋平先生には2022年度SECECトラベリングフェローとしてヨーロッパの著名な先生の施設を訪問していただく予定です。



また、2021年秋には SECEC トラベリングフェローの受け入れが予定されておりますが、国内外の COVID-19 感染の状況を鑑みると中止の公算が強いと思われます。次回の受け入れは 2023 年となる予定です。

KSES (韓国肩肘学会) に関しては、2020 年、2021 年のプログラムは COVID-19 により中止となりましたが、2023 年春に派遣するフェローの募集を 2022 年 5 月より行う予定です。また、2022 年秋には韓国からの KSES フェローの受け入れを行う予定です。国際委員会としても 2022 年からは正常な国際交流ができるように切に願うばかりです。

担当理事：菅谷啓之

委員長：三幡輝久

委員：井樋栄二、糸魚川善昭、乾浩明、瓜田淳、高橋憲正、谷口昇、松村昇、望月智之

## 社会保険等委員会

委員長 望月智之

---

2019 年に保険収載に至らなかった「腱固定術(肩)」「肩腱板断裂手術(腱固定術を伴う)」、「腱固定術(肩)(関節鏡下)」「肩腱板断裂手術(関節鏡下)(腱固定術を伴う)」の再要望を行うため、診療報酬改定要望書を外保連に提出いたしました。

実態調査である手術アンケートは外保連や中医協に対して新たな手術手技の申請・要望を行う上で、大変重要な資料となります。次回の手術アンケートは 2022 年に行う予定となっております。対象症例は 2021 年 1 月から 2021 年 12 月までの症例となり、2021 年 12 月にアンケートを送付し、2022 年 2 月末までにご提出をお願いする予定です。お手数をお掛けしますが、その際には会員の先生方にご協力を賜りたくお願い申し上げます。

担当理事：橋口宏

委員長：望月智之

委員：菊川憲志、黒川大介、杉本勝正、高橋憲正、田中誠人、名越充、廣瀬聰明

## 教育研修委員会

委員長 後藤英之

---

2021 年度の教育研修委員会の活動予定について報告致します。

現在、海外渡航も困難となり海外でのキャダバーの研修が開催できない状況の中、会員の皆様からの強い要望を受け、感染防止対策を万全に整えた上で、キャダバーワークショップの開催準備をしております。また、併せて第 5 回日本肩関節学会手術手技フォーラムも開催を予定します。日程は 2021 年 11 月 27 日(土)・28 日(日)で予定しておりますが、開催日が決まりましたら、HP のお知らせ欄または一斉メールにてご案内します。

ただし、今後の COVID-19 の感染状況によっては、延期または中止となる可能性もあるのでご了承ください。

また、第 13 回教育研修会については、第 48 回日本肩関節学会開催期間中の 2021 年 10 月 29 日、30 日に開催予定です。プログラムは 2020 年度と 2021 年度の 2 年間で一通りの肩関節疾患の診断・治療について研修できるように作成しています。



名称：第5回 日本肩関節学会（JSS）キャダバーワークショップ

日時：2021年11月27日（土）・28日（日）で予定

会場：名古屋市立大学先端医療技術イノベーションセンター

募集人数：関節鏡コース4名（2テーブル）（講師2名）

直視下手術人工関節コース9名（3テーブル）（講師3名）

名称：第5回 肩関節疾患手術手技フォーラム

会期：キャダバーワークショップの1日目の午後に開催予定

会場：名古屋市立大学 会議室（JPタワー名古屋内 5階）

プログラム

1. 関節鏡視下腱板修復術 –最近のトピックスを含めて–
2. 関節鏡視下バンカート修復術 –コンタクトスポーツへの対処法も含めて–
3. 製品紹介・企業広告
4. 解剖学的人工肩関節置換術
5. リバース人工肩関節置換術 合併症の予防を含めて

第13回教育研修会 会場：ウインクあいち

2021年10月29日（金）、30日（土）（時間未定）

教育研修講演1

座長 マツダ病院 整形外科 菊川和彦先生

演題1：肩関節周囲骨折の診断と治療

演者：いわき市医療センター 整形外科 相澤利武先生

演題2：小児の肩関節疾患

演者：慶友整形外科病院 慶友関節鏡センター 船越忠直先生

教育研修講演2

座長 マツダ病院 整形外科 菊川和彦先生

演題1：人工肩関節置換術の基礎と実際

演者：八王子スポーツ整形外科 小林尚史先生

演題2：肩のスポーツ障害の診断と治療

演者：国立病院機構 神戸医療センター整形外科 国分毅先生

これからも教育研修委員会としては、研修会やワークショップを通じて会員の皆様の肩関節診療のお役に立てるよう活動して参ります。今後ともご指導、ご意見を賜りますようお願い致します。

担当理事：菊川和彦

委員長：後藤英之

委員：相澤利武、内山善康、大泉尚美、国分毅、小林尚史、小林勉、酒井忠博、末永直樹、船越忠直、山本宣幸



## 学術委員会

委員長 藤井康成

前回報告以降の活動内容としましては、第47回日本肩関節学会会長の末永直樹先生のご好意により、学会内に学術委員会報告のセッションを設けて頂き、浜田純一郎先生と高瀬勝己理事がまとめられた「凍結肩」および「肩鎖関節脱臼」のアンケート調査の結果の最終報告を行いました。報告内容は、雑誌「肩関節」に投稿中であります。

今回の企画は学術委員会としても初めての試みで、コロナ禍での開催で多大にご尽力された会長の末永直樹先生には、改めてこの場を借りて深謝致します。今後も本企画が継続できますよう、委員会を挙げて活動して行く所存でございます。

現在進行中の課題と致しましては、東北大学 山本宣幸先生を中心とした「肩関節初回前方脱臼に対する外転外旋固定法の多施設共同研究による前向き研究」が継続中です。新たな課題と致しましては、「広範囲腱板断裂に対する手術療法に関するアンケート調査」と、「腱板脂肪変性の画像評価」に対して、肩学会としての統一基準を作成すべく review 調査を企画し、具体案を作成中であります。(面前での会議と異なり、昨年よりコロナ禍のため、web を通しての議事進行となっており、委員間での活発な議論がどうしても間延びしてしまい、上手く討論を展開しづらく苦戦中であります。委員長の進行役としての拙さが一番の問題なのかもしれませんが。)

また、第95回日本整形外科学会学術総会と第36回日本整形外科学会基礎学術集会の事務局より依頼のありましたシンポジウム案の作成を、委員会で検討し、それぞれ数演題を理事会に提出しました。理事会での審議の結果、下記演題を事務局に提出致しました。

第95回日本整形外科学会学術総会

1. 肩鎖関節脱臼の基礎と臨床
2. 肩関節外科に必要な解剖および機能

第36回日本整形外科学会基礎学術集会

術後の腱板修復に影響を与える因子

今後とも学術委員会活動に対しまして、会員の皆様の益々のご理解ならびにご協力を賜りたく、宜しく願い申し上げます。

担当理事：高瀬勝己

委員長：藤井康成

委員：乾浩明、後藤昌史、小林勉、塩崎浩之、田崎篤、畑幸彦、浜田純一郎、

林田賢治、山門浩太郎、山本宣幸、横矢晋

アドバイザー：森澤豊

## 広報委員会

委員長 北村歳男

2020年度(今期)は田中栄理事のもとで、広報委員会の役割について見直しをし、改善を図るべく委員会内に改善のための working group を設置しました。1年かけて具体化したいと考えています。

本委員会の役割は、肩学会の会員にニュースレターを通じて学術集会やセミナー、理事会や委員会の活動などを定期的に会員に伝達紹介すること、また一般の人たちにも日本肩関節学会の活動と肩関節外科医の役割や活動を周知していただけるようにすること、さらに非学会員に対しては肩関節外科の魅力をアピールし、学会員や協力企業



の増加に寄与する活動を行なって行くことです。この役割をどのような形で実現できるか検討中です。

年2回のニュースレターの発行は継続していきます。また従来からのニュースレターとともに新企画を検討しています。学術的に魅力ある情報や留学便りの紹介などを検討しています。今回はまだ前段階ですが「コロナ禍における留学」を取り上げました。これから留学を希望されている先生に少しでもお役に立つ情報が発信できれば幸いと考えています。様々な取り組みを検討しています。皆様からの意見や情報がありましたら最寄りの委員への連絡をお願い申し上げます。

担当理事：田中栄

委員長：北村歳男

委員：新井隆三、大前博路、菊川憲志、国分毅、小林勉、夏恒治、

西中直也、村成幸、松浦恒明、望月由

## 財務委員会

委員長 中川滋人

2021年1月のニュースレター Vol.15でもご報告させていただきましたが、

1. 2019年度の日本肩の運動機能研究会発足に伴い、準会員1号、2号の入会者増による増収
2. 2020年度で2015年度に実施した特別会計の高岸直人賞口座からの一般会計の借入金の返済が終了
3. 2020年度は、COVID-19禍の影響で、キャダバーワークショップ、肩関節疾患手術手技フォーラム、交換留学などの事業が中止になったことによる支出減少

以上の3点により、ここ数年続いてきた本学会の財政の危機的状況からはようやく脱却できつつあります。この間、対面会議の減少、新規事業の抑制などで、会員の皆様には何かとご迷惑をおかけしておりました。今後は新たな企画にも積極的に取り組んでいただけるような状況に戻れるのではないかと考えています。これまでの皆様のご協力に深謝申し上げます。しかしながら、本学会の財務状況は決して潤沢というわけではありません。今後の本学会の健全な発展のためにも、正会員・準会員・賛助会員の勧誘にぜひご協力をお願いいたします。

担当理事：岩堀裕介

委員長：中川滋人

委員：石毛徳之、内山善康、国分毅、酒井忠博、林田賢治、村成幸

外部アドバイザー：柄澤徹



## リバーズ型人工肩関節運用委員会

委員長 山門浩太郎

---

RSAの手術症例数が増加するにつれて、当委員会にお寄せいただいた相談件数も増えていきます。多数回手術例や大きな骨欠損症例あるいは骨腫瘍症例など疾患は多岐にわたりますが、大多数は年齢が問題となっており、前回の改定で65歳に引き下げられたとはいえ治療の最終手段と位置付けられるRSAの使用において会員の皆様が極めて慎重に判断されていることを反映していると考えます。相談は随時、受け付けておりますので、RSA適応の是非あるいは可否について判断に迷う症例は、事務局あてに症例のあらましと画像をお送りください。

前回の改定では、RSA実施医の資格が「腱板」資格と「骨折」資格にわかれて規定されました。これに加えて「肩周囲の骨・軟部腫瘍手術実施医基準」が日本整形外科学会ワーキンググループにて議論されています。今後、この「骨軟部腫瘍」資格が日本整形外科学会理事会で承認されれば、リバーズ型人工肩関節全置換術適正使用基準の改定を経て運用される見込みです。骨軟部腫瘍の再建において、カスタムインプラントに対するRSAの優位性は、コストのみならず臨床成績においてもいくつかの報告がなされているところであり、この分野における本邦での今後の発展が期待されるところです。

担当理事：菅谷啓之

委員長：山門浩太郎

委員：井樋栄二、落合信靖、木村明彦、小林尚史、松村昇、水野直子、最上敦彦

アドバイザー：高岸憲二、中川泰彰

## 日本肩の運動機能研究会運営委員会

委員長 浜田純一郎

---

「肩の運動機能研究会」が、一般社団法人である日本肩関節学会（以下、学会）に帰属する組織として「日本肩の運動機能研究会（以下、研究会）」に名称を変更し、継続的組織となったのは、第46回日本肩関節学会が開催された前日の2019年10月24日であり、今年2021年10月で2年を迎えます。研究会の概要について改めてご説明します。研究会の会員は学会の準会員1号・2号または正会員である必要があります。研究会の運営は学会の常設委員会である研究会運営委員会が担います。運営委員会は1名の担当理事、1名の代議員である委員長、10名程度の正会員と準会員の委員で構成され、研究会運営の基本方針を決定し学会と研究会のパイプ役を務めます。研究会世話人会は医師以外の研究会会員から選出された10名の世話人で構成され、研究会の実質的運営を行います。次に学術集会についてですが、学会の学術集会会長は学会社員総会で決定され、研究会学術集会の会長は学会学術集会の会長が指名し、例年10～11月の同一日程、同一会場で学会・研究会学術集会が併催されます。

今後の課題を提示いたします。学会では代議員を選挙で選び、代議員の中から理事、理事長が選出され、そして代議員と理事で構成される12の委員会により学会の組織が運営され、一般法人として透明性・公平性を図っています。研究会でもこれと同様に選挙で選ばれる組織づくりに取り組まなくてはなりません。現在の会則担当、財務担当、広報担当以外の担当部署を新たに創設する必要もあります。2021年6月現時点の準会員数は483名ですが、研究会のさらなる発展のために準会員の入会を推進することも大切です。運営委員会では世話人会の議論に基づき、研究会組織のあり方を今後も検討してまいりますので、会員の皆さまのご理解・ご協力を今後ともよろしく願います。



一般社団法人

日本肩関節学会

Japan Shoulder Society

Newsletter

担当理事：岩堀裕介

委員長：浜田純一郎

委員：甲斐義浩、黒川大介、見目智紀、小林尚史、高村隆、田中稔、田中誠人、立花孝、  
船越忠直、村木孝行、森原徹、山口光國

## 選挙管理委員会

委員長 森原 徹

2021年度は、代議員選挙、第51回学術集会会長選挙を行います。選挙案内、候補者等の情報は、随時、会員サイトに掲示します。

### 1. 代議員選挙について

代議員選出規則に基づき、下記の要領で選挙を行います。

#### 【選挙日程】

- ・2021年8月に候補者氏名等を掲示し、正会員による異議申し立て受付（規則第6条2）
- ・2021年10月中（第48回学術集会前）にWebで信任投票、選任投票（規則第6条3）、当選人を決定し、社員総会、学術集会時に結果発表

### 2. 第51回学術集会会長選挙について

定款第39条に定める学術集会会長について、学術集会会長選挙規則に基づき、下記の要領で選挙を実施します。

#### 【選挙日程】

2021年10月中（第48回学術集会前）にWebで投票、当選人を決定し、社員総会、学術集会時に結果発表

委員長：森原 徹

委員：新井隆三、大泉尚美、田崎篤、橋本卓、松浦恒明、山口浩

## ▶ コロナ禍の留学記：アメリカ ユタ大学整形外科

東北大学 整形外科 川上純



Orthopaedic Center

東北大学整形外科の川上純と申します。この度は、アメリカ・ユタ州でのコロナ禍の留学体験を肩学会員の皆様にご報告できる場を頂き、誠にありがとうございます。私は2019年4月から2021年3月まで、アメリカのユタ州ソルトレイクシティにあるユタ大学整形外科に留学させて頂きました。コロナがユタ州に上陸したのが、2020年の3月ですので、約1年間コロナと共に過ごしたことになります。

### ■ ソルトレイクシティについて

まず、ソルトレイクシティについてご紹介させていただきます。ソルトレイクシティは人口20万の小さな都市ですが、周辺の地区を合わせたSalt Lake County(郡)は120万です。ニューヨークやロサンゼルスのように都会ではなく、コロナの感染者もそこまで爆発的な増加は見られませんでした。ユタ州は5つの国立公園があり、自然を楽しむには良いところだと思います。気候は夏と冬が長く、春と秋はあっという間に過ぎていきます。夏の間はほとんど雨が降らず、晴天の日が続き気温も40度近くになることもあります。乾燥しており日本のようなじとじとした暑さは感じません。冬は天候が悪く、雪もたびたび降り、大雪が降る日もありますが、朝に除雪されて日中には路面から雪が消えているので生活に困るほどではありません。

### ■ コロナ初期

ユタ州のコロナ陽性者のカウントが始まった日は3月6日で、ダイヤモンドプリンセス号で感染した人がユタ州に戻った日でした。その後、3月11日に、ユタジャズの選手が感染したことが報告されてからは目まぐるしい変化が起きました。3月13日に、非常事態宣言が出され、Social Distanceを保つ指示、集会の禁止、保育園から大学すべてが休校またはオンラインとなりました。保育園は6月まで閉鎖され、小学校は翌年の2月までオンライン授業が続きました。子供が遊ぶ屋外の公園なども閉鎖され、これは9月まで続きました。博物館、美術館などもすべて閉鎖され、スキー場、国立公園などの屋外の施設も閉鎖になりました。このような施設は施設ごとに再開の基準が異なるのか、帰国まで閉鎖しているところから、夏ぐらいから制限付きで再開しているところまで様々でした。また、スーパーマーケットから商品がなくなり、消毒液、ペーパー類は2か月程度、手に入らない状況になりました。肝心の研究室も閉鎖に追い込まれ、5月下旬までは研究室に入ることができなくなりました。ミーティングや勉強会はすべてオンラインに移行されました。3月27日には、stay at home orderが出され、4月下旬ごろまで続きました。また、アジア系の人々に対するヘイトクライムが大都市では発生し、買い物などでは警戒するようになりました。

5月中旬には、1日の感染者は150人、死者は3人程度で推移し、徐々に制限が解除されました。そんな中、ジョージ・フロイド氏が警察官に殺され、大規模な抗議デモがソルトレイクシティでも行われ、警察車両が燃やされたり、暴動がおき、罰金を科すまでの外出禁止令も出されました。アメリカには根強い人種差別が未だに残っていることを肌で感じました。5月下旬に研究室も人数を制限すれば必要最小限の滞在が許可されました。しかし、6月までは保育園が閉鎖されていたことが大きな問題でした。私は、この留学に1歳、3歳、5歳の三男児を連れていっており、当然ながら現地には身寄りもなく、保育園が閉鎖された約三ヶ月間は、私と妻で保育・教育を行わなければならなくなりました。通っていた保育園でも週に1-2回はオンライン授業を開いてくれていましたが、幼児には画面に向き合わせるの難しく、逆に親の手を煩わせました。このため、6月に保育園が開くまでは、ほとんど研究室に行く



時間はありませんでした。保育園が再開するかどうか分からない時期が2ヶ月続いた時は、帰国しようと考えておりました。6月に保育園を利用できるようになった時は、また、研究ができるとうれしくなったことを思い出します。

### ■ コロナ制圧期

6月から9月は1日の感染者は400人、死者は5人程度で推移し、ユタ州の規制は緩められました。大学の規制は州の規制より厳しく設けてあり、研究室の制限は継続され、基本は自宅でオンラインで業務を行い、研究室でしかできない業務のみ研究室に向かう毎日となりました。その頃、8月から10月にかけてはカリフォルニアで大規模な山火事があり、ソルトレイクシティもその煙の影響を受けて、大気汚染がひどく、長く外にはいられない日がありました。

9月からは長男がKindergartenに入りましたが、対面での授業はまだ再開されておらず、オンライン授業でした。5歳児が一人でおとなしくオンライン授業を受けられるはずがなく、親がつきっきりで対応しなければならなくなりました。Kindergartenはコロナ禍でなければ、対面式の授業の他に第二外国語の生徒のための発音などに特化した授業も行っていて、それが大変勉強になると聞いていたのですが、その授業も中止となりました。



閉鎖された公園



燃やされた警察車両

### ■ コロナ感染拡大期

10月からは1日の感染者が1,000人、死者が5人となり、ハロウィーンを契機にさらに増加しました。11月は1日の感染者が3,000人、死者が10人となり、ユタでは二度目の緊急事態宣言が発令されました。その頃から、周囲の保育園のスタッフや園児で感染者が出て、2週間の閉園がたびたび起こるようになりました。我々の保育園でも3度閉園(6週間)しました。また、感染対策はかなり厳しく一滴でも鼻水を垂らせれば、帰宅させられるため、せっかく保育園につれていっても1-2時間で迎えに行かなければ行けないことも多々ありました。その度に、研究活動は制限されてしまいます。

12月、1月が感染のピークとなり、1日の感染者が4,000人、死者が20人を超える日もありました。一時期は陽性率も30%、ICUの稼働率が100%となりました。しかし、12月中旬から、75歳以上の高齢者と医療関係者のワクチン接種が始まりました。2月には、研究室のスタッフはほぼ全員ワクチン接種が完了していたようです。

帰国においても、飛行機の減便などで予定していたフライトは5度も変更されました。帰国日直前3日前には外務省が、邦人の帰国の際に陰性証明書を持たないものは搭乗を拒否する声明を出し、急速、コロナの検査を受けに行くことになりました。そういう事態を想定して、コロナの検査を渡航目的に検査が可能で、日本が求める検査を行っているところを探してはいましたが、見つけれずにはいました。上司や秘書さん、現地の友人にもお願いして探してもらっていましたが、その時点で見つけれずにはいませんでした。さらに、日本領事館にも問い合わせ、探してもらおうしてもらったところ、「陰性証明書なしで、搭乗させないという措置は日本は行わない」と断言して頂いていたので、安心していたのですが、急速必要になり、陰性証明書取得に大変苦勞致しました。



## ■ コロナ禍の渡米とコロナワクチン普及による生活の変化

ここからは 2020 年 11 月に渡米してきた後輩の話になります。後輩は、2020 年 4 月からユタ大整形外科に留学予定でしたが、3 月に大使館が閉鎖されてしまい、VISA の発行ができず、4 月の渡米は不可能となりました。留学生の受け入れは大学や部署によって様々ですが、ユタ大整形外科は特に制限は設けていなかったため、VISA さえ発行されれば、受け入れは可能でした。大使館が 8 月頃に再開し、その時に最短で VISA 面接をとれたのが、10 月中旬でした。CDC は 2 週間の隔離を推奨していますが、日本のように位置情報の提出や実名公開などの強い規制ではありませんでした。5 月現在、ワクチンは住民の半数以上が接種済みとなり、マスクの着用の義務も解除されたそうです。研究室で仕事をする事も許されて、オンラインでの仕事は終わり、コロナ前の状態にほぼ近づきつつあるようです。

## ■ ユタ大学整形外科とユタ州の余暇



研究室の写真(研究室HPより引用)



商品がなくなった Walmart の棚

ここで、一変して研究と余暇についてお話したいと思います。ユタ大整形外科は、NIH からもらっている Grant がその当時は整形外科の分野の中で全米第 1 位 (\$12,428,561) と潤沢な資金を持っています。大学のそばには軍の施設もあり、軍からも資金が提供されています。そのため、大学病院の整形外科の他に 4 階建ての Orthopaedic Center を大学敷地内に建て、その中には研究所、5 つの日帰り用の手術室、外来、MRI、CT、リハ室、Office などが入っています。研究室は、小さな体育館ぐらいの広さがあり、そこには、Cadaver を処理するエリア、Robot arm, Instron, Optrack、透視装置などがある実験エリア、プラスチックおよび金属を材料とする 3D プリンターや金属を加工するエリアがあります。研究室の脇には、レジデントやフェローが Cadaver を使ったトレーニングできる手術手技トレーニングセンターもあります。研究グループは主に 3 つに分かれ、私は肩関節の研究を主に行う、Henninger Research Group で肩関節前方不安定症の研究を行いました。このグループは、とりわけ Shoulder simulator に力を入れており、Dual fluoroscopy から抽出された正常肩関節の動きをインプットし、死体肩を正常肩のように動かすことを目指しています。残り 2 つのグループでは、股、膝、足関節などの研究が行われていました。研究室の上の階にいる臨床医のアイデアを研究者が計画実行していくようなシステムになっています。医者が行う研究ではなく、研究者が行う研究は高度でついていけない部分も多々ありましたが、プログラミングを用いて効率よくデータを収集解析する方法はじめ、新しい手法を学ぶことができ、楽しい時間を過ごすことができました。コロナ前は、研究だけでなく、週に 1 回の手術見学、週に 1 回の外来見学、スポーツ選手の診察、上司のラジオ出演なども見学もさせて頂くことができました。また、毎朝なにかしらの meeting があり、Grand round (症例検討や勉強会) や Sports meeting (スポーツ整形の勉強会)、肩肘の Clinical meeting、Research meeting に参加し、充実した 1 年を過ごすことができました。

余暇は家族のために時間を使いました。ユタ州とアリゾナ州にまたがるエリアに絶景スポットがある国立公園や国定公園が集まったグランドサークルと呼ばれるエリアがあります。ソルトレイクシティからおよそ 500km、車で 4-5 時間といった比較的アクセスの良いところに、アーチーズ、ザイオン、ブライスカニオンなどの 5 つの有名な国立

公園があります。アメリカのフリーウェイはほとんどカーブがないため、ハンドル操作もほとんど不要で、クルーズコントロールを利用することでアクセル操作もほとんど不要になり、5時間の運転もそれほど苦になりません。さらに足を伸ばせば、グランドキャニオンやイエローストーンなどにも車でアクセスすることができます。留学は研究が本文ではありますが、アメリカの大自然を堪能することも留学においては大事なことと考え、アメリカの大地をいくつか巡らせて頂きました。長距離歩かなければならない絶景スポットには幼児3人連れでは行くことはできませんでしたが、車で行ける範囲でも十分楽しむことができました。



アーチーズ国立公園

#### ■ これから留学される方へのアドバイス

最後に、これから留学される方への一つアドバイスをさせて頂きたいと思います。留学ガイドブックやネットに多くの情報があるため、そこにはあまり載っていないと思うことをここでは書かせて頂きたいと思います。お子様を連れて行かれる場合は、なるべくKindergarten以上の学年になってからが良いと思います。アメリカの保育園は非常に高く、ソルトレイクシティはまだ安い方ですが、大都市は目の玉が飛び出る額です。Kindergartenからは授業料が無料になります。鉛筆、クレヨン、粘土など学校で使うほとんどの備品は無料で提供されます。また、英語習得にあたって小学校の中学年が良いとも言われています。なかなか、計画的に留学に行くことはできませんが、将来留学を見据えている先生は、その点も考慮に入れても良いかもしれません。次に、旅行代を節約する方法について2つのサイトを提案させて頂きたいと思います。まず、Flight from homeというサイトは、登録すると格安航空券の情報をいち早く受け取ることができます。私の場合は、コロナ後にこの情報を得たので利用はありませんでしたが、時期を選ばなければ、破格の値段でフライトを予約することができます。次に、紹介させて頂きたいのがimoovaというリロケーションレンタルで、1日1\$でキャンピングカーを借りることができます。通常は安くても1日150\$はかかるので、タイミングが合えば非常に家計にやさしいです。ソルトレイクシティからは、サンフランシスコ、ロサンゼルス、ラスベガスなどに返却するものがたまに出ます。キャンピングカーのことをRVと呼びますが、アメリカには、電気、水道、汚水設備があるRV parkが豊富にあります。日本ではRVの楽しさを感じるのには難しいのではないかとと思われるので、是非、アメリカで格安のRVの旅を楽しんでもらいたいと思います。生活備品の購入に関してはWalmartでも安く手に入りますが、ソルトレイクシティを中心に西海岸にはDesert Industriesという、リサイクルショップがあります。これは、モルモン教で運営されていて、寄付されたものを格安で提供するというシステムになっています。ここでは、様々なジャンルの商品を取り扱っているため、重宝します。また、ブランドもノンブランドも考慮されていない価格設定であるため、高額商品が格安で手に入ることもあります。

アメリカは、ワクチンの普及によりだんだんと通常の生活に戻りつつあります。むしろ、現在は日本のワクチン普及率が低くアメリカから危険な国と警戒されています。入国制限が出る前に渡米できる状況にあれば、早めに出発した方がいいのかもしれませんが。留学希望者が減少している昨今、コロナによりさらに希望者が減少するのではないかと心配されます。たとえコロナ禍だったとしても、人生経験として多くのことを学ぶことができます。是非、留学に行けるチャンスがあるのであれば、挑戦して頂ければ、絶対に成長できるいい機会になると思います。

最後に、乱文にも関わらず最後までお読みくださった方々に感謝申し上げます。



## ▶ 事務局からのお知らせ

日頃より学会活動のご協力をいただきましてありがとうございます。

現在、東京は3回目の緊急事態宣言中で、巷ではコロナ感染、新型コロナウイルスワクチン接種の報道・話題が占めているのが当たり前の日常になってしまいました。(6月18日時点)

私も、出社と在宅を混ぜた勤務体制(部署によりますが1週間のうち、基本出社2日、在宅3日)もすでに1年以上たちましたが、やはり在宅では業務しづら部分もありまだまだ慣れません。私の席があるフロアは80名ほどの社員が在籍していますが、この体制になってからは毎日10名くらいしか出社しておらず社内を見渡すと少し寂しい雰囲気があります。このコロナ感染が落ち着いて、少しでも通常に戻り、会社帰りに食事をしたりできる環境に早く戻ってほしいところです。

さて事務局からのお知らせです。

今年度(2020年度)の会期は2020年8月1日から2021年7月31日までとなっております。まだ年会費を納付いただいていない先生がいらっしゃいましたら会期末までにお振込みをいただきますようお願いいたします。

広報委員会報告にもありましたように、マンネリ化しているニュースレターの内容を充実すべく、委員の先生方の主導で一緒に企画等に対応していきたいと思っております。

会員の先生の中で、「こんな記事を書きたい、書いても良いよ」などがございましたら、是非事務局までご連絡いただければ幸いです。





一般社団法人

日本肩関節学会

Japan Shoulder Society

Newsletter

編集

広報委員会

後記

大前博路

ニュースレター 16 号を最後までお読みいただきありがとうございます。

コロナ禍で大変な中、また学会シーズンでお忙しい中、ご執筆いただいた先生方には心より感謝いたします。

本号には池上理事長の挨拶、第 48 回学術集会岩堀会長の挨拶、各委員会からの報告に加えて、特別企画としてコロナ禍の留学記を掲載しております。学会活動について会員の先生方に詳細な情報を提供することがニュースレターの重要な役割ですが、それに加えて若い先生方に肩関節外科により興味を持っていただくような広報ができればと思います。今回掲載した留学記以外にも、新しい企画を検討中です。今後のニュースレターにご期待ください。

ワクチン接種が開始され、わずかな希望が見え始めているように思います。皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念します。



一般社団法人

日本肩関節学会

Japan Shoulder Society

編集：一般社団法人日本肩関節学会 広報委員会

田中栄（担当理事）、北村歳男（委員長）、新井隆三、大前博路、菊川憲志、国分毅、小林勉、夏恒治、西中直也、松浦恒明、村成幸、望月由

発行：一般社団法人日本肩関節学会

〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル 8 階 株式会社アイ・エス・エス内

TEL03-6369-9981/FAX03-6369-9982

E-mail office@shoulder-s.jp URL :<https://www.j-shoulder-s.jp/>